

## 学位論文内容の要旨

		要 旨
学位申請者	上田 祥代 【人間発達科学専攻 平成22年度生】	
論文題目	操作-応答系の分散知覚に関わる認知情報処理過程	<p>車の運転など、システムを操作し、その応答をフィードバックとして与えられる例は、日常、多々ある。本論文は、このような操作-応答系における応答のばらつきを、認知情報処理における分散知覚の観点から検討した研究をまとめたものである。</p> <p>本論文は、6つの章から構成されている。</p> <p>第1章では、本研究の必要性を先行研究の問題点を説明している。</p> <p>第2章では、本論文で報告した研究の実験測定法（QUEST）の選定理由、概要、分析方法について紹介した。</p> <p>第3章、4章、5章は、3つの研究を報告している。</p> <p>研究1（第3章）では、操作-応答系における分散知覚の基礎過程を実験的に検討し、その内的メカニズムのシミュレーションを行った。その結果、刺激-反応間の非線形性を、実験、モデル、シミュレーションで実証した。</p> <p>研究2（第4章）では、操作-応答系の観察（能動的観察）と操作を伴わない出力系の観察（受動的観察）との比較を行い、その結果、操作-応答系の観察の方が、分散知覚の感度が優れることを実証した。</p> <p>研究3（第5章）では、「操作-応答のばらつきが大きくなることは、システムの異常を知らせる情報となる」という前提から、リスク認知と分散知覚との関係性を、ゲーム様式の実験を通して検討した。その結果、分散識別能力が高いほど、操作中止判断のタイミングが早く、安定しているという相関関係、および、学習の効果が示された。</p> <p>第6章では、本論文で報告された研究についてまとめ、本研究の意義、限界、および、今後の課題や、分散知覚研究の展望について説明されている。</p>
審査委員	(主査) 教授 石口 彰	
	教授 内藤 俊史	
	准教授 上原 泉	
	教授 菅原 ますみ	
	青山学院大学教育人間科学部 准教授 薬師神 玲子	